

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年12月25日

【認知症対応型共同生活介護用】

【評価実施概要】

事業所番号	2774000836
法人名	有限会社 トータルケアエービーシー
事業所名	豊中いろは園
所在地	豊中市北条町4丁目7番31号 (電話) 06-6335-3168

評価機関名	社会福祉法人 大阪府社会福祉協議会
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1番54号 大阪社会福祉指導センター内
訪問調査日	平成 21年 12月 7日

【情報提供票より】(平成 21年 11月 26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 13年 4月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人	常勤 2人, 非常勤 8人, 常勤換算	7.7人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋一部木造 造り		
	3階建ての	2階 ~	3階部分

(3) 利用料金等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	330円	昼食	330円
	夕食	330円	おやつ	0円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要 (平成 21年 11月 26日現在)

利用者人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	4名	要介護2	2名		
要介護3	2名	要介護4	0名		
要介護5	1名	要支援2	0名		
年齢	平均 76.8歳	最低	57歳	最高	93歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	多谷医院(内科)、小曾根病院(精神科)
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

有限会社が運営する1ユニットのホームで、緑地公園に近い静かな住宅街に立地しています。以前はそろばん塾として多くの生徒が通っていた建物を改装し、豊中市で最初に設立されたホームです。3階建ての2~3階がホームとなっています。「自立と共生、健康」を理念として、自分でできることはやっていたり姿勢を貫き、自宅へ帰ることを目標に、健康的な生活を送ってもらえることを目指しています。最近では若年性認知症の方を受け入れるなど、様々な取り組みも始めました。リビングや食堂は3階になっており、食材の購入や食事作りはみんなで賑やかに、家庭的な雰囲気のもと季節にあった献立を味わっています。利用者もできることを手伝いながら楽しく生活しています。職員の離職も少なく、馴染みの関係や家庭的な雰囲気を大切にしています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連科目:外部4)
	自己評価、外部評価の意義は管理者をはじめ、職員も良く理解しています。前回の外部評価結果で示された事項については、家族や職員にも報告や具体的な検討を行い、職員間で話し合いの機会を作って取り組み始めています。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、管理者を中心に作成し、職員の意見を反映しています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議の規程を作成しています。出席者は、家族の代表、利用者、地域の住民代表、市介護相談員、管理者です。ホームの日々の取り組みや、活動内容の報告、職員の言葉遣いの問題等、現状での問題点について検討しています。しかし、運営推進会議は3月に開催し、その後は定期的な開催に至っていない状況です。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族には毎月1回請求書を送付し、近況については面会時にお伝えしています。今後はお便りや写真の送付も検討しています。家族の面会時には要望を直接聞いています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	地域の一員として町内会に加入しています。回ってきた回覧板を利用者と一緒に次のお宅へ回す等、日常的な交流をしています。スーパーでの買い物や薬局等で地域の方に出会った時には挨拶を交わしています。今後は自治会から公園の掃除などの依頼があれば参加する意向です。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念として「自立・共生・健康」を掲げ、「利用者のできることはやっていただく、どこまでできるか見守る、その人にあった介護を考えてできるだけ医療にかからないこと」をモットーに、地域と共に暮らし続けられるよう作り上げています。理念は白板に掲げていますが、今後は職員で話し合い、掲示について検討中です。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	運営理念は白板に掲げてみんなで共有しています。会議等でも確認し合い、日々の仕事の中で実践しています。職員は常に利用者と共に、明るく生き生き過ごすことを心がけています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに務めている	地域の一員として町内会に加入しています。回ってきた回覧板を利用者と一緒に、次のお宅へ回す等、日常的な交流をしています。スーパーでの買い物や薬局等で地域の方と出会った時には挨拶を交わしています。今後は自治会から公園の掃除などの依頼があれば参加する意向です。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者の変更もあって、最近の2年間は外部評価を受けていませんでした。前回の評価結果のうち一部は改善に取り組んでいますが、入浴については取り組めていない状況です。今回の自己評価については代表が中心に作成し、取り組みの成果の部分は職員が記入していますが、皆が目を通して意識するには至っていませんでした。	○	実践の意義を理解し、評価を活かして具体的な改善の取り組みが求められます。
5	8	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の規程を作成しています。出席者は、家族の代表、利用者、地域の住民代表、市介護相談員、管理者です。ホームの日々の取り組みや、活動内容の報告、職員の言葉遣いの問題等、現状での問題点について検討しています。しかし、運営推進会議は3月に開催し、その後は定期的な開催に至っていない状況です。	○	運営推進会議はおおよそ2ヶ月に1回の開催が求められます。
6	9	○ 市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会づくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日頃から相談できる窓口は確保されています。疑問点がある時は必ず市役所に出向いたり、電話をしたりして尋ねています。市から6ヶ月に1回利用者の面会に来ることもあり、また市が派遣する介護相談員が1ヶ月に1回来訪し、利用者の話を聞いたり相談したりして、サービスの質の向上に取り組んでいます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には毎月1回請求書を送付しています。近況については面会の際にお伝えしています。電話連絡はしていますが、文書での定期的な報告には至っていません。今後はお便りや写真の送付も検討しています。	○	家族への報告について、年間数回はお便りを送るなどの工夫が求められます。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時には直接要望を聞いています。職員の言葉遣いについて疑問が寄せられたことがあり、そのことを反省事項として話し合い、利用者に対してなれなれしくならないよう、節度のある親しみを込めた声かけに注意することで要望を反映しています。家族が意見を表出しやすい環境作りや運営に取り組む姿勢があります。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の離職を最小限にするため、働きやすくやりがいのある職場作りを心がけています。新任職員が入職した時には、家族の来訪時に紹介しています。認知症の利用者にとって馴染みの関係は大切であり、今後とも離職者を最小限に抑えるよう努力することが期待されます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部、外部共に年間計画を立てて研修に参加できていない状況です。毎月の会議等で必要な情報、インフルエンザ、食中毒等については伝えていますが、改めて研修を開催していない状況です。研修資料については、職員間で回覧しています。	○	年間研修計画を立て、外部研修2回を含む、年間6回以上研修を受講することが求められます。また伝達研修を行い、職員間で情報を共有することが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、他グループホームの運営推進会議を見学して会議の進め方を学び、市の北西部ネットワークに参加して、サービスの質の向上に活かしています。介護保険事業者連絡会に年4回参加しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規利用者には入居前に気軽に見学してもらったり、自宅を訪問したり、また2～3日体験入居してもらった事例もあります。入居時はできるだけ在宅での生活に近い環境作りを行い、家具等身の回り品は使い慣れたものや気に入っているもの等を持ち込んでもらっています。入居後は不安を軽減するために個別対応の時間を増やし、徐々にホームに馴染めるよう工夫しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に過ごすことを大切にし、利用者一人ひとりの能力を発揮できる機会を多くしています。料理の好きな方には味付けを教わったり、記憶力や計算の得意な方にはそれを活かしてもらったり、テーブル拭きやセッティング、洗い物などお互いに支えあう関係作りを目指しています。テレビを見ながらの世間話や日常の会話を楽しみ、喜怒哀楽のある生活をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、それまでの経緯や利用者の状況を家族や関係者から情報を得て記述しています。また、日々の関わりの中で利用者一人ひとりに声かけを行い、利用者の思いや希望について把握することに努めています。今後は、利用者の生活歴を追記されることが望まれます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の生活歴やライフスタイル、身体、生活能力等を聞き取り、希望に添った生活が送れるよう取り組んでいます。日頃から職員は、利用者自身でできる喜びを大切にしたり記録や協力体制を整え、作成した介護計画書には、利用者や家族による同意のサインを得ています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書は、全職員が参加するカンファレンスでの意見等を参考にして、定期的に6ヶ月に一度は見直しを実施しています。利用者の状態に変化が生じたときは、その都度見直しを行い、変化に対応した介護計画書を作成し、利用者や家族の同意を得ています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援（事業所及び法人関連事業の多機能性の活用）					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の必要な物品購入や急な受診等、家族の対応が困難な時には柔軟に支援しています。介護相談は随時対応しています。可能な限り地域住民の要望に応じて通院に付き添っています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援の協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望するかかりつけ医の受診を支援しています。また、月2回の内科医の往診や月1回精神科医の往診があり、訪問看護も受け入れ、利用者が安心して健康に暮らせるように配慮しています。	○	今後は、緊急時に対応してもらえるような協力医療機関を確保することが求められます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの指針は作成していませんが、希望があれば受け入れ、終末期までホームで過ごされた利用者もいました。食欲が無くなり、今後どのように支援していくか等、日々話し合った経過もあります。今後も利用者、家族の希望に沿っていけるよう検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報の保護やプライバシーの確保について共有しています。排泄、入浴、更衣は個別対応しています。また、入居時には個人情報の保護について説明し、サインも得ています。今後は、定例の会議等でも個人情報の保護やプライバシーについて、再度確認されることが望まれます。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースを尊重し、急がすことなく支援しています。ホームとしての予定はありますが、利用者の意向に合わせて見守り中心の支援をしています。利用者からの声かけや表情、身振りを見逃さない対応を心がけています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材は近くのスーパーで職員が購入して、3食共にホームで調理を行い、できたての食事を提供しています。利用者も一緒におやつを買いに行ったり、下ごしらえや皮むきを手伝ったりしています。また、ホットプレートを使ってホットケーキを焼く等、みんなで楽しんでいます。利用者に食べたい物の希望を聞き、そうめんやバイキング等希望に沿っています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は利用者一人ひとりの体調や状態を見ながら、週2回入浴できるようにしています。入浴好まない方には、日本民謡を歌いながら浴室へ誘導する等、気持ちよく入浴していただけるよう工夫しています。	○	今後は一人ひとりの希望に沿って入浴が楽しめるように、週3回の入浴が求められます。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴を本人や家族から聞き取り、日常生活での家事活動や、好きな事を全職員が見出すことに努めています。坊主めくりを楽しんだり、歌を歌ったり、掃除、食器洗い、食器拭き、洗濯物の整理等を行っています。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	年間の行事計画に沿って、散歩やハイキング、外食等を楽しんでいます。今年の春は近隣の緑地公園へ梅を見に出かけました。しかし遠方にドライブした際に、車酔いの方が数名おられ、今後の外出先については検討しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開錠しています。管理者は鍵をかけることの弊害は理解していますが、職員が気づかず利用者が外へ出て行かれたこともあり、安全確保のため1階エレベーターホールのアコーディオンカーテンに鍵をかけています。	○	今後は、利用者の行動パターンを把握し、鍵をかけない時間帯をつくる等の取り組みが求められます。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回消防署の協力を得て訓練を行っています。水害、災害訓練は予定を立てて検討中です。必要な食料等の備蓄はあります。	○	今後は、災害時対応マニュアルの作成と緊急避難訓練の実施が求められます。また備蓄についても、食料だけではなく、水を確保することが求められます。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は、利用者一人ひとり毎日把握して支援しています。提供する食事内容については、およそのカロリー計算がされています。水分摂取量については、毎回の食事やティータイムの時に水分補給に気をつけ、脱水予防に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	1階は事務所や職員のための集会室ですが、利用者が気分転換に使用できる空間になっています。2階は居室のみとなっており、3階は日当たりの良い食堂と居室になっています。トイレを使用中にはランプがつくようになっており、プライバシーに配慮しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各居室は思い思いの手作り作品や仏壇、自分のふるさとの写真を飾るなど、馴染みの品々に囲まれて、ゆったりと過ごせる空間になっており、また生活感のある個性的で居心地のよい部屋になっています。居室の入り口はカーテンや引き戸等、利用者一人ひとりが使い勝手の良いように工夫しています。</p>		